



7月29日。

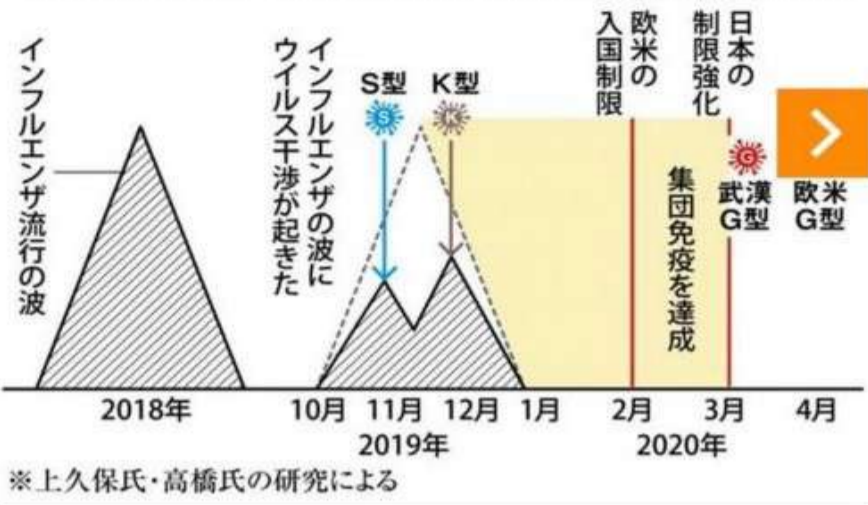
上久保靖彦京都大学特定教授の上久保靖彦氏らが発表した研究

早速だが、右の図解No.2をご覧ください。京都大学の上久保教授は、日本はすでに集団免疫に達していると発表した。昨年の暮れから、コロナウイルスのS型が日本に上陸しております。これは、弱毒性（掛かっているのか？かかっていないのかもわからない症状）。それから少し遅れて、変異したK型が日本へ上陸している。実は、このコロナのK型が、T免疫細胞を獲得して、その後からやってきたまさに「武漢型のG型、または欧米変異の欧米G型」これは、非常に強い毒性を持っているものなのですが、T免疫細胞を送り出して、撃退しているわけです。つまり日本人は、すでに免疫細胞を取得しているということになるわけです。なぜ、コロナウイルスが日本に、入ってきたことが解明できたのかは？ウイルス干渉という現象によるものです。（図解No.1を参照）コロナウイルスに感染した場合は、インフルエンザに感染しません。逆もしかりです。

上久保教授らは、昨年のインフルエンザが日本で急速に終息したという相関関係を元に、データを拾い出して、疫学的に説明されております。昨年の11月から考えると約184万人もの中国人観光客が入国されています。実際に、武漢から1月20日から2月1日まで約34万人が中国から入国しています。さらに武漢封鎖後の3月9日まで中国人の渡航の制限をしていなかった。これによってS型とk型が到来して、日本人の間で、集団感染に達していると説明しております。（日本人の55%が集団免疫と書かれています。）これによって、遅れてきた毒性が強いG型に対して、T免疫細胞の獲得がすでに成り立

ているので、日本はすでに免疫獲得しているという説明になります。日本では、G型の感染でひどい被害が生じた湖北省から入国を止めたものの、中国全土からの入国禁止になかなか踏み込まなかったため、G型の入国は抑制されながら、K型の感染は広がりやすい状況にあったというわけです。そこで欧米では、なぜ、重症化と死亡者数が多いのか？このような疑問が生じるはずですが。この疑問に対して「欧米にはS型が十分に流入したが、K型が流入しなかった。図解No.2を見ると、だからG型に対して免疫がなかった。またS型だけだと、かえって（ADE抗体依存性感染増強）という作用（ウイルス増強のターボマシンのような作用）が働いて、コロナウイルスによる逆に重症化が進んだ現象が起きた。だから、イタリア・スペイン・他の欧米各国は、重症化と死亡者数が多くなったということでもあります。

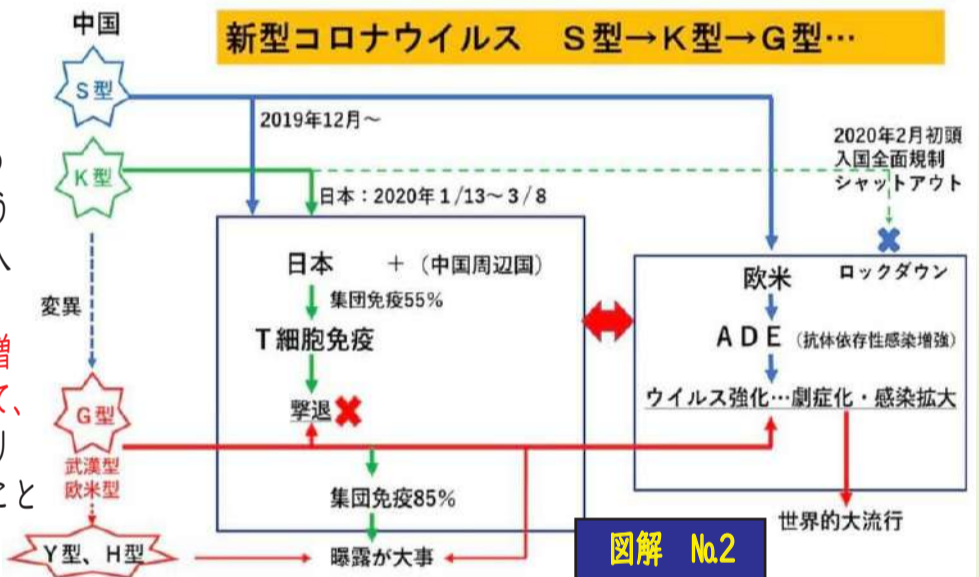
インフルエンザへのウイルス干渉と集団免疫説のしくみ



上久保靖彦京都大学特定教授の上久保靖彦氏らが発表した研究

どちらにしても、疫学的なコロナによる感染現象を元に、アフターコロナの指針を上久保教授が説明をしております。記者会見から、TVタックルなど、最近では、ようやく一般的な番組で報道されるようになりました。そこで、上久保教授の説明が正しいとした場合には、このコロナウイルスに最も適切に対応するには、どうすればよいのか？世間では、PCR検査をもっと拡充して陽性者をどんどん発見して隔離し、また国民の経済活動を制限して、市中感染を広げないようにすべきとの議論が常識化しております。しかしながら、T免疫細胞が国民に広く浸透し、それを持続するためには、実は、移動制限のようなものはかえって不必要で、自由に行動させた方がいいこととなります。（もちろん重症化しやすい高齢者と基礎疾患のある人の対応は、別扱いになります）。図解No.3を参照していただきたいと思ひます。これは、抗体による作用を図解で表現したものです。要は、体の中にウイルスに対応するための「軍隊」が存在している。時には、ミサイル（キラーT細胞）、時には、地上軍（リンパ球）で、撃退する。地上軍だけでも撃退することもできるが、時には、ミサイルを発射しなければならないときもある。それには、日々のトレーニングが必要だということになるわけです。その免疫の抗体のバランスを図で説明してあるものです。そのトレーニングは、適度な感染が必要とも説明をしております。いわゆる暴露ですね。上久保教授の説明では、現在、日本人は、再暴露になっているからゆえに、PCR検査数が増えて陰性になったり、再検査したら、陽性反応が出ている。しかしながら、免疫

（先ほどの図解で言えば『軍隊』）を保有していることとなるので、逆に、発症率も低い。または、重症化もない。多少の倦怠感や微熱などはあっても、結局、抵抗力を発揮して、消滅させている。だから、PCR検査の数を増やしても、TVで毎日報道される数は『感染者』と言われるから、不安をおおるが、実際の実情は「陽性反応者の数」であって、実情は発症による重症化もほとんど見られないわけで、毎日のTV報道が果たして意味があるものなのか？と私は考えております。そして、人の免疫トレーニングを考えれば、マスクをしたり、または、人との距離を取るべき注意を払って生活していますが、この生活の仕方も、逆に普通に元に戻すべきなのではないか？とも思うわけです。同時に上久保教授らの主張する免疫に対する考え方、生活スタイルなのです。



図解 No.2

時間と共に抗体は弱まる → 再び同じウイルスが侵入すると...



ウイルス撃退後は抗体の生産減少 → 抗体検査で陰性になる可能性  
免疫細胞は残っているためウイルスが侵入しても抗体を再び増産

図解 No.3